

- 遠州豊田 PA 南地区発掘調査速報 P1～2
- 寺谷用水を歩く（第2回/全4回） P3
- 津倉家住宅見学会のお知らせ P4
- コラム「海外いったら、博物館いこう！」
渡邊武文 P4



パ・キョウエリア

遠州豊田 PA 南地区発掘調査速報 ひろの 広野遺跡から古墳3基を新たに発見！

遠州豊田 PA 南側の開発に先立って、8月1日より12月末までの予定で、広野遺跡の発掘調査を行っています。これまでの調査成果を速報でお知らせします。

広野遺跡って？

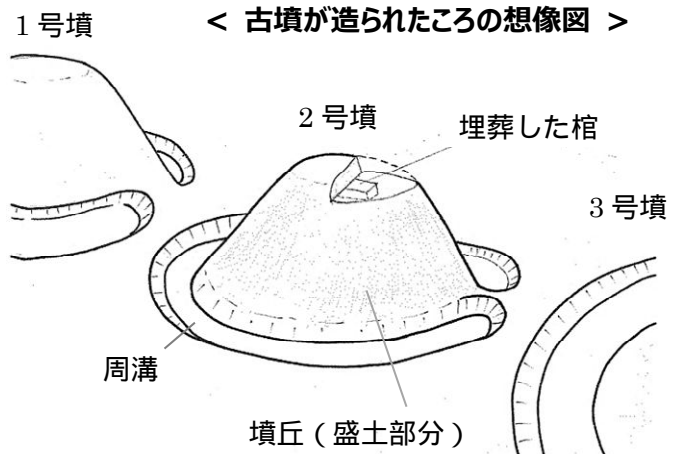
豊田東小学校建設のときに、初めて本格的な発掘調査が行われて以来、これまでに15回にわたる調査が行われていて、旧石器時代の調理施設跡、縄文時代の住居跡、弥生時代のお墓（方形周溝墓）などが見つかっています。

今回の調査結果

パワーショベルで土を掘り下げていくと、古墳の周りに掘られた溝（周溝）が見つかりました。直径10～12メートルの円墳（平面形が丸い古墳）で、盛土や埋葬施設は残っていませんでしたが、出土した土器の形から、今から約1,500年前にこの地域を治めた有力者のお墓であることがわかりました。

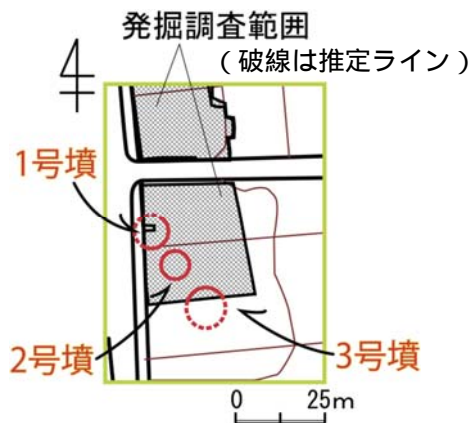


< 古墳が見つかった時の様子 > 南西から撮影
黒い土が古墳のまわりに掘られた溝のあとです。



古墳から見つかったものは・・・

周溝から土器が見つっています。土師器（野焼きされた
 橙色の土器）と須恵器（窯で焼かれた灰色の土器）の2種類
 があります。これらは、古墳のおまつり（先祖に祈りをささ
 げる儀式）のときのお供え物をのせるために使われた土器が、
 墳丘から転落したものと考えられます。このほか、石製の「紡
 錘車」といわれる糸をよる道具が出土しました。



< 1号墳から出土した紡錘車 >

円形に削られた石の中央に穴が開いています。断面形は
 台形です。直径は 4.1 センチ、穴の径は 0.8 センチ。穴に
 木の棒を通して使います。

< 1号墳周溝からみつかった土師器 >



< 3号墳周溝からみつかった土師器 >



現場見学会を開催しました

地域みなさんに新発見の古墳と発掘調査の
 ようすを見学してもらうため、9月11日(日)
 に見学会を開催しました。午前、午後あわせて
 200人のお客さまにご来場いただきました。古墳
 から出土したばかりの土器や、発掘調査のようす
 を見て、たいへん興味深そうでした。「細かい作
 業ですね」など声をかけてもらいました。

2号墳の周溝を
 発掘、解説をしている様子



今後も調査続きます



このあと、同じ区画で旧石器時代（今から約 2 万年前）の遺跡を調査
 します。この時代の人々が使った石器や調理施設跡が見つかる見込みで
 す。調査が進んだところで、現場を公開する予定ですので、どうぞご覧
 下さい。

磐田市イメージキャラクター
 ひっぺい



寺谷用水を歩く

第2回(全4回)

磐田市の西側を南北に貫く、寺谷用水。用水路をぶらり巡れば、知られざる寺谷用水が見つかるかもしれません。寺谷用水の旅、2回目は取水口をご紹介します。

移り変わった取水口

天竜川から水を取り入れる用水ですから、どこから水を取り入れるかによって上下の水量が変わってしまいますので、沿線の人々にとってはとても重大なことでした。

最初にあった寺谷の取水口付近は、今でも^{いりかみ}^{いりした} 上、^{いり} 下^{いり}の地名が残っています(堰は水を調節する水門のこと)。その後何か所かの取水口ができ、川の流れの状態によってどこから取り入れるか決めていました。掛下には一番堰がありましたが、今は右写真の一番堰橋という名前が当時をしのぶ唯一のものです。



一番堰橋

今も残る神田取水口

上野部にある寺谷用水神田取水口。江戸時代から取水口になったところですが、現在残っているのは昭和18年(1943)のもので、コンクリート製の本体に木製の樋が今でも残っています。

上に樋の開閉をする役目の人がいたと伝わります。写真のように今では天竜川の水位ははるかに下になっていて、取水することはできません。

樋...水の出入り口。

開閉して水を出したり留めたりする。



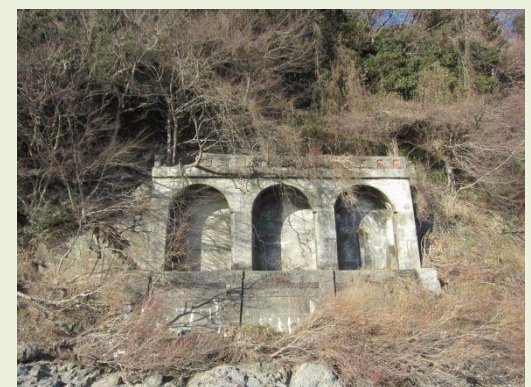
神田取水口跡

今はどこから？

戦後は秋葉ダムや佐久間ダムなどができて、天竜川の流れが安定すると同時に、水位はどんどん低くなっていきました。

右写真はいまでも残る^{あくら} 阿蔵取水口(昭和19年(1944) 浜松市天竜区阿蔵)ですが、ご覧のとおり今はここからも取水することはできません。

昭和54年(1979)以降現在に至るまで、^{ふなぎら} 船明ダムから上野部(神田)まで引かれた導水管を通り、各分水口を經由して各地に通水しています。



阿蔵取水口跡

津倉家住宅見学会開催のお知らせ



明治の豪商・廻船問屋「津倉家」の見学会を開催します。昨年に引き続き、掛塚祭にあわせ2日間の公開です！ぜひこの機会に、掛塚湊の繁栄の歴史を伝える貴重な文化財をご覧ください。

※津倉家住宅の見どころについては、文化財だより第117号で紹介しています。（市HPにて公開中です。）

日時 平成28年10月15日(土)・16日(日)
公開時間 9:00～12:00・13:00～15:00
申込不要 見学無料
駐車場 天竜川掛塚橋下河川敷駐車場

【問い合わせ先】

磐田市教育委員会 文化財課
平日 8:30～17:00 (0538) 32-9699



津倉家住宅...磐田市掛塚 1099

職員リレー コラム

海外いったら、博物館いこう！

渡邊 武文

8月に初めてシンガポールにいき、アジア文明博物館に立ち寄りました。ネーミングの壮大さに一度は行ってみたいと思っていた場所でした。実際、展示も多民族国家にふさわしい多彩なものでした。

中でも、シンガポールの南東約600kmのジャワ海の海底で見つかった約1200年前の沈没船に関する展示には、特に驚かされました！中東で製作されたこの船は、古代中国で仕入れた金銀製品を含む様々な物資を載せて帰る途中であったようです。とりわけ、赤褐色や緑色で描かれた花や鳥、魚などが絵付けされた大量の完形の陶磁器たちは本当に美しかったです。そして、シンガポール周辺海域の歴史的な結びつきも実感し、船に乗せた品々の豪華さから「日本と唐の貿易はどうであったのか」ということにも興味がわいてきました。

このように、博物館に行くことで、訪れた国のことを知ることができますし、ひいては自国の歴史や文化にも考えをめぐらせることができます。海外に行く時には、目的地にぜひ博物館や資料館を加えることをおすすめします。



滞在はジカ熱感染症流行直前でした。
一刻も早い収束をお祈りします。

編集
後記

秋祭りの季節になりました。太鼓、笛、摺鉢の音色に心が躍るとともに楽しい思い出がよみがえります。

発行：磐田市教育委員会事務局教育部
文化財課(磐田市埋蔵文化財センター)
住所：〒438-0086 磐田市見付3678-1 電話：0538-32-9699
◆WEB版文化財だよりは市HPから閲覧できます。